

ファクトリー・ガール

2008(平成20)年2月27日鑑賞(角川映画試写室)

★★★



監督=ジョージ・ヒッケンルーパー/出演=シエナ・ミラー/ガイ・ピアース/ヘイデン・クリステンセン (ファントム・フィルム、AMG エンタテインメント、エイベックス・エンタテインメント配給/2006年アメリカ映画/91分)

…… 1960年代のポップ・アートの旗手アンディ・ウォーホルを知ってる……? また、そのミューズとして一世を風靡した美女イーディ・セジウィックを知ってる……? 『ベティ・ペイジ』(06年)と同じく、アメリカの一面の勉強になることは確実だから、その方面に興味のある方にはお薦めだが……。

第1に、1960年代、ニューヨークの“ファクトリー”と呼ばれるスタジオを根城とし、ポップ・アートの旗手として君臨していたというアンディ・ウォーホル(ガイ・ピアース)をあなたは知ってる……? 彼の人となりや業績はネットを調べればテンコ盛り……。

第2に、アメリカでは知らない者はいないという「セジウィック家」生まれのお嬢サマながら、父親との折り合いが悪くて家を飛び出していた中、ウォーホルと出会って意気投合し、「ファクトリーの華」として輝いたイーディ・セジウィック(シエナ・ミラー)をあなたは知ってる……? 彼女は、その美貌と圧倒的な存在感でたちまちメディアの注目を集めたが……?

第3に、イーディがロック・スターのボブ・ディラン(この映画では、なぜかビリー・クインという名前)(ヘイデン・クリステンセン)と親しくなったため、ウォーホルとビリーとの確執が生じ、この映画のようなもめ方(?)をしたことをあなたは知ってる……?

この3人の人物をよく知っており、またそういう時代のそういう現象に興味があれば、この映画は面白いはず。しかし、それを何も知らず、また興味がなければ全然面白くないかも……。

『ベティ・ペイジ』（06年）は、たとえその名前を知らなくてもセクシーさで男性客を楽しませてくれたが、この映画にはそんなセクシーさの楽しみはない。うえ、後半はドラッグ中毒によって落ちていくイーディの姿ばかりだから、余計面白くない……？

ファクトリーは「工場」だが、これはウォーホルの「ファクトリー」が工場で大量生産されるかのように、次々と芸術作品をつくっていたことから名づけられたとのこと。

私はこのウォーホルを全然知らなかったが、ネット情報によれば、アート（絵画）の領域でたくさんの名作を残しただけではなく、映画もたくさん製作していたらしい。したがって、イーディは「ウォーホルのミューズ」としてわずか4カ月の間に11本の映画に出演したらしい。しかし、その華の時代は短く、またたく間に転落していったのは一体なぜ……？

2008(平成20)年2月27日記